

実践報告 (Report)

保育者・教師養成課程で学ぶ学生の主体的学び(学びの主体性)の促進を目指した授業の試みについて

——「手書き A3 課題」を授業に継続して活用することの意義とその効果——

An Attempt In Class to Enhance Activeness in Learning of the Students in the Training course of Nursery and Elementary School Teacher: The Meaning and Effect On Successively Introducing “Handmade A3 Task” For Summary of The Lesson after Group Presentation

服部 次郎*
HATTORI, Jiro*

キーワード：学びの主体性，調べ学習（手書き A3 課題），発表体験（主体的学び）

Key words: Activeness in Learning, Preparatory Task (Handmade A3Task), Experiences of Presentation

1. 研究の背景と目的

筆者は、IT 機器がますます多用される現代において、学生自らが手書きにより取り組む学習法の効果を探求している。これは授業において教師から知識の伝達を受ける受動的な学習、あるいは近年注目され、今後その効果が大きい期待されている ICT 教育だけでは、移り変わりの激しい現代の社会状況の中で主体的に問題解決ができる人材の育成は困難であると考えからである。そこで筆者は、授業等において初めに学生に課題を与え、次に調べ学習をさせた後、その成果を A3 用紙 1 枚（表裏利用）に手書きでまとめさせるという学習法（以下 A3 課題と呼ぶ）を実践してきている（服部 2014a, b；服部 2015）。この実践により、筆者は学生の「学びの主体性」を育てることができたと判断している（服部 2014a）。

「学びの主体性」については、2012 年 8 月の中教審答申「大学教育の質的転換に向けて」においても、「生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を持った人材は、学生からみて受動的な教育の場では育成することができない。……教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見出していく能動的学修への転換が必要である。……学生は主体的な学修の体験を重ねてこそ、生涯学び続ける力を修得できるのである。」（p. 9）と述べられている。

学習法の効果の検証には、効果の持続性を確認することが大切である。A3 課題は初年次教育として実施しているが、その後も A3 課題を継続していくと初年時より学びの質が高まる可能性が示唆された（服部 2015）。本研究では今年度の保育初等専修（以下保初と呼ぶ）2 年生を調査対象とし、対象学生が 1 年生であったときの調査結果とも可能な範囲で比較を行い、同じ対象者を継続的に追跡していくことで、服部

(2015)の目的としている「学びの主体性」をより高めることのできる学習法を模索していきたいと考えている。

その際に、筆者が以前から関心を持つ以下の研究結果を考慮して調査を実施した。渡部（2013）は「主体的な学びというものは学習者本人に生まれるものなのに、先生がそれをどのように引き出すことができるのだろうか、……」という問題提起をし、山下（2013）は「能動的学修（アクティブラーニング）環境」について「教室内設備環境でのホワイトボードの利用率が87%で最も多く利用されている」や「ホワイトボードは、手書きでフレキシブル性は高い」という報告をしている。さらに鈴木（2004）は「文脈を作るためのストーリー性や楽しむためのゲーム性を取り入れた問題解決型の教材は……学生に対する興味や関心を喚起し、内発動機を高める」と述べている。

本研究では、上記3つの研究内容を考慮した5つの仮説を設定しその妥当性を検討する。なお(5)については、今回新たに含めたものであるが、その理由は、これまで自分が担当したいくつかの科目で、異なったテーマについて手書きA3課題を出し、その中で「A3課題を通して学んだこと」という設問をしたときに、科目やテーマが異なっても、「このA3課題を通して多くのことを学ぶことができた。初めはめんどくさいと思ってしまったが、話を理解し、自分の力でまとめることがここまで意味のあるものだとは思っていなかった。」など、似た内容の意見が返ってきたからである。

- (1) A3用紙により課題に取り組むことは、将来自分の就く仕事を考えたとき、役に立つ。
- (2) A3用紙による課題に取り組むことは、授業において自分自身の「主体的な学び」につながる。
- (3) 「手書きA3課題」作成の際に、パソコン等の機器ではなく、手書きで課題を作成することは学生の「主体的な学び」を促進するという点で効果がある。
- (4) 「調べ学習」をする際に用いた「手書きA3課題」において、キャラクターも含めた図等を活用することは、学生の「主体的な学び」を促進するという点で効果がある。
- (5) A3課題は特定の授業科目、テーマだけでなく広く応用が可能である。

2. 研究の方法

前年度の反省を踏まえアンケート用紙（資料1：改訂版）を作成し、筆者の授業「相談援助」（2年生前期科目）を受講する保初2年生の学生98名（調査日出席者95名）を対象に実施し、仮説の妥当性を検討した。

「相談援助」におけるA3課題の活用状況について簡単に説明する。この授業では、学生が主体的に学ぶことを重視している。学生は、8人の少人数のグループで共同作

業を行うことで、学びを広め、かつ深めることが期待されている。学生たちは授業で使用する教科書（「児童の社会的養護内容」：(株)みらい）の内容を検討し、要点をまとめた上で、発表する。一方で、発表を聞く側は発表された内容のポイントをまとめるという作業をすることとしている。その上で、発表したグループの学生各自が1枚のA3用紙を活用して、表には自分たちの発表内容を、裏には他グループの発表内容および学んだことをまとめるという課題を課している。その際に、まとめ、発表、質疑応答などはグループで対応することとしている。この科目の授業回数は7.5回である。

以上の状況から、「相談援助」のA3課題は同じ学生が1年生時に受けた「社会福祉」のA3課題とは、扱う内容が異なっている。「社会福祉」の授業では里親制度の理解のため活用したビデオ「ぶどうの木」（90分ドラマ）を15回授業の5・6回目に鑑賞し、グループ意見交換・討論などをした上で、各自がA3課題を作成した。また科目の内容・授業時間数の違いもあったため、アンケートの問1については問の一部を変更している。なお授業におけるこの課題の具体的な成果の1例として、学生が作成したA3課題の実物を紹介する（図1）。

3. 結果

以下に「相談援助」（2016年度2年生前期科目）の授業で実施したA3課題についてのアンケート結果を示す。

今回の対象者は昨年1年時に後期授業「社会福祉」を受講しアンケートに答えた学生であり、同じ学生を継続的に追跡したことになる。なお（ ）の数値は昨年のデータを示している。

(1) 5段階評価での選択結果の分布状況と平均値

問1 1年次から活用しているA3用紙により課題に取り組むことは、将来自分の就く仕事を考えたとき、役に立ったと思いますか。（昨年度の問1は、「1年次から活用しているA3用紙により課題に取り組むことは、この授業における事前学習・授業での学習成果の発表・発表後の事後学習（発表後の成果のまとめの作業）にも役立ったと思いますか。」であった）（一番近い番号に○をつけてください）

（5段階評価）平均値は、3.9（昨年：3.8） （回答数95名）

5 とても 役立った	4 ある程度 役立った	3 どちらとも いえない	2 あまり 役立たなかった	1 まったく 役立たなかった
24名 (26名)	39名 (28名)	30名 (39名)	2名 (1名)	0名 (0名)
25% (28%)	41% (30%)	32% (41%)	2% (1%)	0% (0%)

問2-1 A3用紙による課題に取り組むことは、この授業において自分自身の「主体的な学び」につながったと思いますか。

（5段階評価）平均値は、3.7（昨年：3.7）

5 とても つながった	4 ある程度 つながった	3 どちらとも いえない	2 あまりつながら なかった	1 まったくつな がらなかった
18名 (13名)	37名 (40名)	37名 (40名)	3名 (1名)	0名 (0名)
19% (14%)	39% (42.5%)	39% (42.5%)	3% (1%)	0% (0%)

問3-1 今回の「手書き A3課題」作成の際に、パソコン等の機器ではなく手書きで課題を作成することは「学生の主体的な学び」を促進するという点で効果があったと思いますか。

（5段階評価）平均値は、3.8（昨年：3.8）

5 とても あった	4 ある程度 あった	3 どちらとも いえない	2 あまり なかった	1 まったく なかった
18名 (17名)	46名 (44名)	28名 (31名)	1名 (2名)	2名 (0名)
19% (18%)	48% (47%)	29% (33%)	1% (2%)	2% (0%)

問4-1 「調べ学習」をする際に用いた「手書き A3課題」において、キャラクターも含めた図等を活用することは、学生の主体的な学びを促進するという点で効果があったと思いますか。

（5段階評価）平均値は、3.4（昨年：3.6）（未記入1名あり）

5 とても あった	4 ある程度 あった	3 どちらとも いえない	2 あまり なかった	1 まったく なかった
13名 (19名)	24名 (30名)	50名 (39名)	6名 (4名)	1名 (2名)
14% (20%)	25% (32%)	53% (41%)	6% (1%)	1% (2%)

（注）選択肢の5には5点、4には4点、3には3点、2には2点、1には1点を付与した。

昨年この調査に協力してくれた1年生が2年生になり、授業科目、A3課題で扱うテーマなどいくつかの点で違いはあるが、昨年度と同じ設問（問1は一部変更有）について、平均値のみを紹介〔（ ）内は昨年度の結果〕すると、問1は3.9（3.8）、問2は3.7（3.7）、問3は3.8（3.8）、問4は3.4（3.6）という具合であった。

なお今回の調査で、昨年度の反省に基づいて、問2、3、4については、「将来自分



図1 (A3課題縮小版／上：表面，下：裏面)

の就く仕事を考えたとき」という文言を先回の設問に付け足したのも併記（資料1参照：問2-2, 3-2, 4-2という形で尋ねた）することでA3課題の意義を明確化しようと試みたが、学生の自由記述にはその違いが、はっきりとせず、かえってまぎらわしいという感じの意見も見られた。

(2) 次に「具体的に記述をしてください」の部分の学生の記述について問1から問4まですべてに記述がされていたものを中心に取り上げた（注：明らかな間違いを除き原文のままとし、分かりにくい部分は（ ）で補足説明を加えた）が、これについては資料2にまとめた。

4. 考察

結果を統計的に分析したところ、平均値〔（ ）内の数値は昨年度の結果〕は、問1では3.9（3.8）、問2では3.7（3.7）、問3では3.8（3.8）、問4では3.4（3.6）という結果であり仮説に対する一定の支持はあったと考える。各問に対する肯定的反応（評価5+4の割合）を見ても、問1で66%〔昨年58%〕、問2で58%〔同57%〕、問3では67%〔同65%〕、問4では39%〔同52%〕という具合であり、問4は除いて、過半数に達していた。しかし、仮説を強く支持する結果は得られなかった。また、仮説の(5)「A3課題は特定の授業科目、テーマだけでなく広く応用が可能である」については、昨年度（1年生）と今年度（2年生）の平均値等を比較してみると、かなり似た傾向の結果が出ており、仮説の(5)を否定するものではないと考える。

今回の調査でも昨年度同様「どちらともいえない」という反応が目立っており、問1～4において、32%, 39%, 29%, 53%〔昨年41%, 43%, 33%, 41%〕という具合であった。この点については今後アンケートの内容も含めて、さらにその原因と対応を検討したい。

次に資料2にある具体的記述内容に基づいて検討する。

まずは問1での具体的記述を見る。問1：『1年次から活用しているA3用紙により課題に取り組むことは、将来自分の就く仕事を考えたとき、役に立ったと思いますか』という設問であるが、今回明らかになったことは、A3課題をすることで、「まとめるべき文章を見やすくまとめる力が身についた。他の授業のレポート課題の時にもこの力は役に立つ」、「まとめる内容についてしっかり理解していないと（A3課題には）取り組むことができないため、とことん知識をつけるよう努力した」、「保育士になって記録をつけたりする時に、何が大切なのかを見極める練習になったと思う。自分で工夫してどうしたら見やすくなるかなと考えながら作る作業はこれから必ず役に立つと思う（保護者への手紙、壁面など）」、「文章の要約力やレイアウトをする上で創造力が試されるので、頭を柔軟に動かすことができた」、「自分の中で頭の整理をすることができ、自分で足りない知識を知ることができた。また、その足りない知識を自分で補おうと自ら調べなおしたりした」などとあり、「他の授業」や「将来」に役

立つという意味においても、A3課題を評価していることがわかる。8名中4名が「将来」に役立つとし、1名が「他の授業」に役立つと記述しており、先の問1の平均値3.9と合わせて考えても、仮説(1)を一定支持していると考えられる。これは、エドワード・L・デシとリチャード・フラスト（1999）が「できるという感覚が、内発的動機づけと外発的動機づけの両方にとって重要である」（p. 86）と述べているように、自分が学習する際に必要な要素、すなわち「できるという感覚」を高めてくれる要素をA3課題が持っていることを裏付けていると考える。

次に、問2：『A3用紙による課題に取り組むことは、この授業において自分自身の「主体的な学び」につながったと思いますか』に対する記述について検討する。

「自分でまとめて、書くという行為によって受け身ではなく能動的に動くことができました」、「教科書の内容だけでなく、プラスアルファの知識を身につけるよう努力をしました」、「分からない所を調べたり、自分から教科書などに向き合わないといけないものなので、主体的に学べた」、「また、わからないことや自分の中で知識があやふやな部分は仲間と協力して取り組めた」、さらに「教えてもらったことを取り込み、吸収し、自分の中で考えをまとめることで学びへの興味・関心が生まれた」などという記述があるように、授業を普通に受けて学ぶという「受け身の学び」だけではなく、A3課題を「自分でまとめ、書く」ことや「自分の中で考えをまとめる」という行為、さらに「分からない所を調べたり、自分から教科書などに向き合わないといけない」、つまり自分が能動的に動くことで「主体的な学び」につながり、また「学びへの興味・関心が生まれる」こと、さらにわからないことは「仲間と協力して取り組む」ことで「他者との関係性」の中で学習が促進されることになると考えられる。以上のように、A3課題をすることで、能動的に取り組む、努力すること、「仲間と協力して取り組む」ため「他者との関係性」の中で学習促進につながることで、自分の中で考えをまとめることで学びへの興味・関心が生まれることとなり、主体的学びには大切な要素である自律性や関係性に関する欲求の満足につながることでと考えられる。エドワード・L・デシとリチャード・フラスト（1999）の「自律的であるとき、その人はほんとうにしたいことをしている。興味をもって没頭していると感じている」（p. 3）という記述における「自律的であるとき」を「主体的であるとき」と筆者は考えるが、そうするとこの主張とも一致するのである。

昨年度の論文においても、渡部（2013）の「主体的な学びというのは学習者本人に生まれるもののなのに、先生がそれをどのように引き出すことができるのだろうか、……」という問題提起に対して、筆者は「主体的な学び」には、渡部（2013）が主張するように「主体的な学びというのは学習者本人に生まれるもの」、言い換えれば「自発的な学び」という側面がある一方で、A3課題があるからこそ、そこから「主体的な学び」が引き出されるという側面もあると主張した。今回の調査でも、次に紹介する学生の記述などから、筆者の主張も、渡部（2013）のものと同様に正しいものと考えている。

A3課題があることで「もう一度教科書を読み直し、重要な所を確認したりする」、
「教科書の内容だけでなく、プラスアルファの知識を身につけるよう努力した」とい
う具合に、普通であれば終了してしまうところを、もう一度、読み直し、確認する、
さらに、教科書の内容理解だけで終わらず、プラスアルファの知識を身につけるよ
う努力しているのである。さらに「教えてもらったこと」であっても「それを取り込
み、吸収し、自分の中で考えをまとめることで学びへの興味・関心が生まれた」とい
うように、A3課題に取り組むことで、自分自身の中で学習への動機づけが高まるこ
とがわかる。

このように「主体的な学び」については、学びのきっかけは外部から与えられた
A3課題であり、そこでの学びは必ずしも初めから内発的、自発的なものとはいえな
いかもしれないが、「実際に自分自身がやってみるという体験」を通じて興味・関心
が生まれ、大変ではあったが出来たときには達成感・有能感が感じられ、まさに「自
分が主体となって学ぶ」という状態になったという場合にも当てはまるといえる。重
要なことは、このように「学びの主体性」を高めることのできる環境や適切な課題を
工夫し提供することであり、これは、R. M. Ryan and E. L. Deci (2000) が「学校にお
いて、より自己決定に基づいた学習の促進には、人間の三つの基本的欲求（有能感・
自律性・関係性）を満足させるような教室状況、つまり、新しい考えや事柄に出会
い、それに新たな技能を用いて対応するときに、（他の児童や先生と）良い関係にあ
る、うまく対処できている、主体的に活動できている、と感じられるような内的欲求
の満足を支えるような教室状況を必要とする」(p. 65 [筆者訳]) と結論部分で述べて
いることと一致する。この中の「教室状況」を、例えば「A3課題」に取り組む場面
と考えれば、「A3課題」は、まさに「自己決定に基づいた学習の促進」すなわち「主
体的な学び」に寄与していると考えられる。

次に、A3課題が手書きであることの意義について検討する。

問3：『今回の「手書き A3課題」作成の際に、パソコン等の機器ではなく、手書
きで課題を作成することは「学生の主体的な学び」を促進するという点で効果があっ
たと思いますか』に対しての学生の記述をまとめると、以下のようになる。

手書きだと、パソコンのように楽をすることはできないが、代わりに一から自分で
考えていくので考える力が身につく、また、きちんと理解しようとするので主体的に
取り組むことにもなり頭に入りやすくなる。さらに、アイデアをふくらませること
もでき、あたたかみを実感できるため、その結果として、保育に必要な知識と技術を
同時に育てているという感じがして、いろいろなことが身についてくれる、などと
いった具合である。

山下 (2013) の「能動的学修（アクティブラーニング）環境」に関する報告の中に
「教室内設備環境でのホワイトボードの利用率が87%で最も多く利用されている」や
「ホワイトボードは、手書きでフレキシブル性は高い」という調査結果が紹介されて
いる。ここでの「ホワイトボード」を「A3課題」と考えてみると、結果で示された

特性を A3課題がもつことを示していると考えられる。これは、前回と同様の結果であるといえる。

先に紹介した学生の意見は、山下（2013）の報告のように、能動的学修環境を A3課題が生みだしていることの証拠ともいえよう。さらに、「パソコンでうちこむだけでは書き手はよいかもしれないが読み手がつらいこともある」、「手書きだと読み手のことも考えることになる」というような記述があったが、これは極めて示唆的であるとする。手書きであると、それを読む、あるいは見る相手のことも考えながら、課題の作成をするということになる、というのである。つまり、「他者との関係性」を意識して学習することとなり、「有能感」や「自律性」とともに自己決定に基づいた学習の促進を支える重要な一条件である「関係性の欲求」を満足させることにもつながるといえる。

最後に、問 4 について検討する。問 4：『「調べ学習」をする際に用いた「手書き A3課題」において、キャラクターも含めた図等を活用することは、学生の主体的な学びを促進するという点で効果があったと思いますか』に対しては、「どうすれば分かりやすく伝えられるかを考えられる」、「図や色だけでなくキャラクターを効果的に使うことで、より見やすくなる」、「じぶんも絵を書いていて楽しいし、絵があることで見よう！ 勉強してみよう！ と思える」、「自分で工夫してよりわかりやすくしようとすることは『主体的な学び』につながると思います」などという記述があった。A3課題をすることで、工夫してわかりやすくしようとするため、それが「主体的な学び」につながるといえる。また A3課題の中で、絵を描いたりすることは「楽しく」、絵があると、見よう、勉強してみようと思える、という。つまり、活動自体が楽しくなり、その活動の結果が勉強してみようという、学習への動機づけにもなり、結果的に「主体的な学び」につながると考えられるのである。これは鈴木（2004）が「文脈を作るためのストーリー性や楽しむためのゲーム性を取り入れた問題解決型の教材構成という特徴は、……学生に対する興味や関心を喚起するために考案された指導方法であり、内発動機を高める事が、学力をつける最大の武器であるという論拠に基づいた方法である」（p. 133）と述べるように、数学という分野での研究におけるものではあるが、学生の興味関心を喚起する教材の重要性を指摘するもので、筆者の A3課題でのねらい（キャラクター等の活用により、ストーリー性を創造し、相手を楽しませる工夫をし、かつ自分も楽しめる、というねらい）と共通する点があるとする。

今回の科目「相談援助」における A3課題の活用については、同じ学生が 1 年生時に受けた「社会福祉」と形式的には同じであるが、扱う内容・テーマが異なっている。「社会福祉」の授業では里親制度理解のため活用したビデオ「ぶどうの木」（90 分ドラマ）を 15 回授業の 5・6 回目に鑑賞し、グループ意見交換・討論などをした上で各自が A3課題を作成した。したがってストーリー性の点で差が出るのは極めて自然であり、これが内発的動機の面での差にもつながり、問 4 での学生の肯定的反応の差としてあらわれているのではないかと考えられる。この点についてはひとつの例とし

て、A3課題の裏面の「A3課題を通して発見したこと、学んだこと」に記述してある学生の意見を紹介しておきたい。「……今回のまとめる内容は前回（1年生）の『ぶどうの木』のビデオを見た時とは違い、文章と話だけでの説明だった。なので前回よりも視覚的な刺激が少なく、印象に残りづらいつと感じた。そこでA3課題をすることによって内容のイメージを持ち、自分なりのイメージを絵などではっきり表すことでイメージとあわせて内容を覚える、印象づけることにつながったと思う。この点が私はA3課題をやる一番良い点だと思う」というもので、この学生の場合は、ストーリー性の少ない、文章と話だけでの内容の場合は、内容のイメージがわからないため覚えにくい、それをA3課題は補ってくれると肯定的に述べている。ただし図、絵、キャラクター等の活用を苦手とする学生はA3課題に対してすぐには肯定的反応を示せないのも自然なことといえよう。

以上のように、昨年に続いて協力をしてくれた2年次の学生については、4つの設問における平均値および具体的記述から、筆者の仮説に対するある程度の支持は得られたと考えられるが、仮説の妥当性が統計的に十分裏付けられたとはいえないため、さらに検討をしていきたい。なお仮説(5)については、今回2年生時の結果と1年生時の結果で、平均値ではかなり似た点が認められ、A3課題の意義を考える上で貴重なものとする。

今回の研究においても、アンケートの内容もふくめて検討すべき点が明らかにされた。特に、今回の調査でも昨年度同様「どちらともいえない」という反応が目立っている。この点についてはその原因のひとつとして、「キャラクターも含めた図等を活用する」ことを苦手とする学生がいることが考えられる。ただし、その一方で、先に紹介した学生のA3課題への肯定的評価や、「絵を描くことが苦手なので、ずっと描いていなかったのですが、A3課題にはやはり絵がないと寂しくて、絵を描こうと思えるようになり、自分のヘタさを改めて感じました。思い通りに描けなくてとても悔しかったので、あと2年半でうまくなろうと思いました。また、文をまとめることも大変で、どこが重要か見極める力をつけれたと思います」という学生もおり、「キャラクターも含めた図等を活用する」かどうか、については、判断の難しい点がある。そこで考えられるひとつの案は「選択性を採用する」というものである。エドワード・L・デシとリチャード・フラスト（1999）には「自律性を支援することの主要な特徴は、選択をあたえることである。……さらに、研究では選択が人々の内発的動機づけを高めることも明らかにされている」（pp. 201-204）と述べられており選択性を保障することが、課題への動機づけにも良い影響を与えるものとする。

そこで筆者はこの考え方を次回の課題作成の際には取り入れることも検討したい。つまりキャラクターも含めた図等を活用するも、しないもA3課題に取り組むものの選択に任せるという考えを導入して、課題への肯定的な取り組みを促進し、学びの主体性を高めることにつながるかどうかを検討してみたい。今後も継続的調査をするなかでこのA3課題の改善を図り、さらに授業内容・構成等についても再検討し、「学

生の主体的学び」が促進される授業作りを心がけたいと考える。

謝 辞

本研究をまとめるにあたり、貴重な助言・指導をいただき、さらに査読いただいた本学教育学部准教授の野崎健太郎博士に対し、こころより感謝いたします。

また授業において本研究を進める上で協力をしていただいた学生の方々、さらにA3課題の掲載についても快諾いただいた学生の方にもお礼を申しあげたいと思います。

■引用・参考文献

- 鈴木京子：「Web 教材開発における学びの仕掛けとは何か—中学数学・授業研究からの示唆—」日本教育情報学会第20回年会，pp. 132-133，2004.
- 服部次郎：「保育者・教師養成課程における初年次教育としての施設（学校）見学を充実させる事前・事後学習の実践(3)—事前指導でのテーマや事後指導での討論に注目し，学生の主体的学びの促進を目指した改訂版「施設調べ」の試み—」椋山女学園大学教育学部紀要第7号，pp. 187-208，2014a.
- 服部次郎：「A3用紙という空間を通じて」椋山女学園大学FD委員会活動報告書第14号，pp. 47-48，2014b.
- 服部次郎：「保育者・教師養成課程における初年次教育としての施設（学校）見学を充実させる事前・事後学習の実践のその後の専門教科への影響について—学生の主体的学びの促進を目指した授業での試み—」椋山女学園大学教育学部紀要第8号，pp. 179-192，2015.
- 服部次郎：「保育者・教師養成課程で学ぶ学生の主体的学び（学びの主体性）の促進を目指した授業での試みについて—「手書き A3課題」を授業に活用することの意義とその効果—」椋山女学園大学教育学部紀要第9号，pp. 191-203，2016.
- 渡部信一：「認知科学からみた『主体的な学び』」京都大学高等教育研究第19号，pp. 114-125，2013.
- 山下泰生他：「主体的な学びを目指す学修環境の整備とその評価」日本教育情報学会，第29回年会，2012.
- R. M. Ryan and E. L. Deci: Intrinsic and Extrinsic Motivations: Classic Definitions and New Directions. *Contemporary Educational Psychology*, **25**, pp. 54-67, 2000.
- エドワード・L・デシ／リチャード・ラスト：『人を伸ばす力—内発と自律のすすめ—』監訳：桜井茂男，新曜社，1999.
- 中央教育審議会：「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け，主体的に考える力を育成する大学へ～」(答申)，2012.

資料 1

科目（ ） 2 年後期

授業改善とそのための実践研究に向けたアンケートへの協力依頼

2016年12月2日 服部次郎

問 1 1 年次から活用している A3 用紙により課題に取り組むことは、この授業における事前学習・授業での学習成果の発表・発表後の事後学習（発表後の成果のまとめの作業）にも役立ったと思いますか。（一番近い番号に○をつけてください）

5	4	3	2	1
とても役立った	ある程度役立った	どちらともいえない	あまり役立たなかった	まったく役立たなかった

（5・4 に○の場合はその理由／例：どんな時、どんな形で役立ったかなど、具体的に記述してください）

問2-1 A3 用紙による課題に取り組むことは、この授業において自分自身の「主体的な学び」につながったと思いますか。（一番近い番号に○をつけてください）

5	4	3	2	1
とてもつながった	ある程度つながった	どちらともいえない	つながらなかった	まったくつながらなかった

（5・4 に○の場合はその理由／例：どんな時、どんな形で役立ったかなど、具体的に記述してください）

問2-2 将来自分の就く仕事を考えたとき、（以下、問2-1に同じ）。

問3-1 今回の「手書き A3 課題」作成の際に、パソコン等の機器ではなく、手書きで課題を作成することは「学生の主体的な学び」を促進するという点で効果があったと思いますか。

5	4	3	2	1
とてもあった	ある程度あった	どちらともいえない	なかった	まったくなかった

（5・4 に○の場合はその理由／例：どのように効果があったかなど、具体的に記述してください）

問3-2 将来自分の就く仕事を考えたとき、（以下、問3-1に同じ）。

問4-1 「調べ学習」をする際に用いた「手書き A3 課題」において、キャラクターも含めた図等を活用することは、学生の「主体的な学び」を促進するという点で効果があったと思いますか。

5	4	3	2	1
とてもあった	ある程度あった	どちらともいえない	なかった	まったくなかった

（5・4 に○の場合はその理由／例：どのように効果があったかなど、具体的に記述してください）

問4-2 将来自分の就く仕事を考えたとき、（以下、問3-1に同じ）。

問5 この授業において、討論・まとめ・発表をする際に、「手書き A3課題」に取り組むことは、「学生の主体的な学び」を促進するという点で効果があったと思いますか。

5	4	3	2	1
とてもあった	ある程度 あった	どちらとも いえない	あまり なかった	まったく なかった

(5・4に○の場合はその理由／例：どのように効果があったかなど、具体的に記述してください)

問6 A3課題の作成は初めてですか。

1 作成は初めてである 2 作成した事がある

(個人の名前が出ることはありませんので、大学における授業の改善のため、私の研究テーマ「学びの主体性」のため、ご協力いただけるとありがたいです。)

資料2

アンケートの「具体的記述」部分に書かれていた学生の記述について

（問1から問4までのすべてに自由記述が8人の見られたものを取り上げた〔注：明らかな間違いを除き原文のままとし、分かりにくい部分は（ ）で補足説明を加えた〕）

① 学生Aの記述より。

問1：『1年次から活用しているA3用紙により課題に取り組むことは、将来自分の就く仕事を考えたとき、役に立ったと思いますか』

- ・絵を描くことが苦手なので、ずっと描いていなかったのですが、A3課題にはやはり絵がないと寂しくて、絵を描こうと思えるようになり、自分のヘタさを改めて感じました。思い通りに描けなくてとても悔しかったので、あと2年半でうまくなろうと思いました。また、文をまとめることも大変で、どこが重要か見極める力をつけれたと思います。

問2：『A3用紙による課題に取り組むことは、この授業において自分自身の「主体的な学び」につながったと思いますか』

- ・A3課題は自分が理解していないと書けないし、またそれをまとめ、分かりやすくするため、自主的に学ぶことにつながったと思います。

問3：『今回の「手書きA3課題」作成の際に、パソコン等の機器ではなく、手書きで課題を作成することは「学生の主体的な学び」を促進するという点で効果があったと思いますか』

- ・パソコンだと、いろいろと楽する方法があっしまうし、書くことで頭に入りやすくなり、どう文をまとめるかちゃんと理解しないとできないので主体的に取り組める。

問4：『「調べ学習」をする際に用いた「手書きA3課題」において、キャラクターも含めた図等を活用することは、学生の主体的な学びを促進するという点で効果があったと思いますか』

- ・絵を入れることで作成の際気分転換になる。

② 学生Bの記述より。

問1：文章の要約力やレイアウトをする上で創造力が試されるので、頭を柔軟に動かすことができた。

問2：分からない所を調べたり、自分から教科書などと向き合わないといけないものなので、主体的に学べた。

問3：イラストもパソコンだとすでに作られたものを使うことになるので、手書きのイラストやレイアウトを書いてアイデアをふくらませた方がためになると思います。

問4：どうすれば分かりやすく伝えられるかを考えられたため。

③ 学生Cの記述より。

問1：自分の中で頭の整理をすることができ、自分で足りない知識を知ることができた。また、その足りない知識を自分で補おうと自ら調べなおしたりした。

問2：自分でまとめて、書くという行為によって受け身ではなく能動的に動くことができた。また、わからないことや自分の中で知識があやふやな部分は仲間と協力して取り組めた。

問3：パソコンでうちこむだけでは書き手はよいかもしれないが読み手がつらい。その逆で手書きは読み手も書き手もみたときに、わかりやすいと思う。

問4：幼児・児童を相手とする職業につくのでキャラクターを描く練習ができるのはいいと思う。キャラクターを使うことで、子どもはひきこまれて親近感がわきよみすめてくれると思う。

④ 学生Dの記述より。

問1：A3課題のレイアウトやまとめるべき文章を見やすくまとめる力が以前よりも身に付いた。他の授業のレポート課題の時にもこの力は役に立つと思う。

問2：A3課題が出なかったらもう一度教科書を読み直し、重要な所を確認したりすることはなかったと思う。

問3：既成のレイアウトではなく、一から自分で考えていくので考える力が身に付いたと思う。

問4：図や色だけでなくキャラクターを効果的に使うことで、より見やすくなるということが分かった。

⑤ 学生Eの記述より。

問1：A3課題をやる上で、まとめる内容についてしっかり理解していないと取り組むことができないため、とことん知識をつけるよう努力しました。この知識は将来役に立つと思います。

問2：教科書の内容だけでなく、プラスアルファの知識を身につけるよう努力をしました。

問3：自分で直接書くことにより、頭に入りやすかったです。

問4：自分で工夫してよりわかりやすくしようとすることは「主体的な学び」につながると思います。

⑥ 学生Fの記述より。

問1：自分が大切だと思ったこと、必要だと思ったことを抜き出してまとめるのは難しいけれど保育士になって記録をつけたりする時に、何が大切なのかを見極める練習になったと思う。自分で工夫してどうしたら見やすくなるかなと考えながら作る作業はこれから必ず役に立つと思う。(保護者への手紙、壁面など)

問2：教えてもらったことを取り込み、吸収し、自分の中で考えをまとめることで学びへの興味・関心が生まれた。

問3：保育に必要な知識と技術を同時に育てているという感じがして、身についてくれると思えた。

問4：じぶんも絵を書いていて楽しいし、絵があることで見よう！勉強してみよう！と思える。

⑦ 学生Gの記述より。

問1：見やすく読みものをつくる力や、イラストを活用してA3課題を行うことで、将来、教師になったときに掲示物をつくれると感じた。

問2：A3課題に取り組むことで、復習することができた。

問3：手書きによるあたたかみを実感できるため、将来のための学びとなった。

問4：見やすい掲示物を作成できる。

⑧ 学生Hの記述より。

問1：分かりやすくするための工夫や、まとめる作業をすることで将来の役に立つことがあったと思います。

問2：授業で学んでことよりも自分でより調べて勉強することができたし、レジュメや教科書を復習できたので、よかったと思います。

問3：私は手書きの方が頭に入りやすいので、とてもよかったです。

問4：書いていて楽しいから。